

第46回 日本分子生物学会年会 2023



2023年12月6日(水)～8日(金)

神戸ポートアイランド

ランチョンセミナー開催のお知らせ

演題 PCR法によるウイルス核酸検出検査と検査精度管理について

演者 検査対応総括研究官 影山 努先生

演者ご所属 国立感染症研究所 感染症危機管理研究センター

開催日時 2023年12月8日〔金〕12:25～13:15

会場 神戸国際会議場5階(502) 第13会場

要旨

2020年初頭、世界保健機関(WHO)は新型コロナウイルスによる急性呼吸器感染症の世界的大流行(パンデミック)を宣言しました。

このウイルスは2019年12月に肺炎症状を示した中国武漢市の患者検体から次世代シーケンサーによる網羅的病原体ゲノム解析により発見され、後にSARS-CoV-2と命名されるそのウイルスゲノム全長塩基配列は2020年1月10日に公開されました。

全く新しい未知病原体の検出法をその病原体が出現する以前に準備するのは難しく、病原体が明らかになった後に新たな検査法を構築しなければならないことがほとんどです。

PCR法などの遺伝子検査であれば、ゲノム配列公表後の1週間前後で検査法を構築する事も可能です。

他にも人類の前に突如として新規病原体が現れて人々の間で流行した事例として、近年ではHIV、A型インフルエンザウイルス(H1N1)pdm09(AH1pdm)、Mpox virusなどの流行が知られています。AH1pdmlはブタインフルエンザウイルスを起源とし、2009年にパ

ンデミックを引き起こし、当初ウイルス同定のための検査にはリアルタイムRT-PCR法が用いられました。

ライフサイエンス研究においてPCRは遺伝子増幅の一般的な手法の一つとして広く利用されていますが、新型コロナウイルスの流行により「PCR検査」というキーワードが今では一般にも広く知られるようになりました。

今回のセミナーでは「PCR法によるウイルス核酸検出検査と検査精度管理」と題し、感染症の検査・診断におけるPCR法等を利用した遺伝子検査への活用と精度の高い遺伝子検査を実施するための検査精度管理について、ウイルス病原体遺伝子診断の第一人者である国立感染症研究所 感染症危機管理研究センター 検査対応総括研究官 影山 努先生に解説していただきます。

また、PCR検査に重要なリアルタイムPCR装置についてロシュ社から新製品LightCycler Proが2023年11月に新発売されました。その製品特徴などをご紹介します。

本ランチョンセミナーは整理券制となります

配布場所：神戸国際展示場2号館1階 バイオテクノロジーセミナー整理券配布デスク

配布日時：開催当日(12月8日)8:00～11:00(※なくなり次第終了)

- 配布：
- 事前予約された方
デスクにて当選メール(出力、またはスマートフォン等)を現地スタッフへご提示の上「事前予約専用整理券」を受け取りください。
 - 当日受付される方
デスクにて「年会参加章」をご提示のうえ、「当日整理券」を受け取りください。



ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社



日本ジェネティクス